

# ちばの博物館

<http://www.chibahaku.skr.jp/hp/>

発行・編集  
千葉県博物館協会  
〒260-8682  
千葉市中央区青葉町955番地  
千葉県立中央博物館  
TEL.043-265-3111

## 海の世界との出会いー鴨川シーワールドー

雄大な太平洋を目の前に「海の世界との出会い」をコンセプトにした、生命の大切さとふれあいのすばらしさを感じ、楽しく学ぶことのできる水族館です。海の王者シャチをはじめ、ベルーガやイルカ、アシカのパフォーマンスのほか、自然環境を再現した展示を通して800種11,000点の川や海の動物たちに出会うことができます。



▲シャチ

### <概要>

1970年10月1日にオープン。総面積5.5haの敷地に、水の一生をテーマとした「エコアクアローム」、熱帯の珊瑚環礁を再現した「トロピカルアイランド」、ウミガメ類展示施設「ウミガメの浜」、シャチ展示施設「オーシャンスタジアム」、イルカ類展示施設「サーフスタジアム」、ベルーガ展示施設「マリンシアター」、イルカ類・鰐脚類・ペンギン類などの展示施設「ロッキーワールド」があります。

動物園・水族館の社会的機能には教育・レクリエーション・自然保護・研究があり、近年は、とりわけ「環境教育」と「種の保存」が重要視されています。

### <教育活動>

年間パスポート会員「ドルフィンドリームクラブ」を組織し、小学生の会員を対象とした「動物友の会月例会」、夏休みや冬休みに実施される「サマースクール」「ウィンタースクール」、飼育係の体験学習「ジュニアトレーナー」、学校団体を対象にした「海の生き物教室」や「ナイトアドベンチャー」など、独自の教育プログラムを展開しています。

### <種の保存>

近在の地域で座礁や迷入した海獣類の保護活動にも力を注ぎ、市民や行政機関と連携し、現場での対応、緊急保護や治療を実施しています。また、鴨川市の砂浜はアカウミガメの産卵場となっており、孵化に不適な条件下で産卵された卵を保護し、当館の施設に保護卵を移設し、孵化および幼体の生態調査を実施しながら、より自然生態に近い状態で孵化幼体を放流しています。

また、動物園・水族館は、その飼育技術を野生生物の保全に役立てる機関でもあり、飼育下繁殖が積極的に進められています。とりわけ、人工授精技術は、稀少生物の保全や適正な血統管理のもとでの飼育下繁殖に応用可能な技術で国内外の研究者との共同研究を進めています。

### <地域との連携>

水族館の運営には漁業関係者の協力は不可欠で、保護個体の放流や調査・研究活動にも協力をいただいています。また、成人式や鴨川市民DAY、千葉県民の日、敬老の日などのイベント、交通安全キャンペーンなど、行政機関との連携も積極的におこない地域の文化活動に協力しています。

◆住所／千葉県鴨川市東町1464-18

◆問い合わせ先／電話 04-7093-4803

◆ホームページ／<http://www.kamogawa-seaworld.jp>



▲園内

も  
く  
じ

- 海の世界との出会いー鴨川シーワールドー… 1
- 令和元年度千葉県博物館協会研修会参加報告… 5
- 図書館の中の文化芸術普及施設ー横芝光町民ギャラリーー… 2～3
- 春から秋の催し (4月～9月)… 6
- 東京オリンピック・パラリンピックに向けて
- 展示会案内… 7
- ー多言語化への期待と対応… 4
- 日誌抄・編集後記… 8

No. **145**  
2020.3.31

## 図書館の中の文化・芸術普及施設 —横芝光町民ギャラリー—

横芝光町教育委員会 社会文化課 生涯学習班文化財担当 道澤 明

### 1 横芝光町民ギャラリーの沿革

横芝光町民ギャラリーは、町立図書館の2階の一室にある。これは平成18年の町合併直前、図書館の視聴覚室の利用頻度が低いため他の活用を検討した結果、文化・芸術の普及の場として改装したことによる。このため、床面積約50㎡とこじんまりしているが、スペースが足りないときは隣室のハイビジョンホール（約120㎡）、あるいはギャラリー前のエントランス（約100㎡）も利用する。当初民間による運営を委託したが、その後曲折を経て平成23年度から社会文化課直営の運営とした。23年2月に町民ギャラリー運営委員会要綱を告示し、23年度から運営委員会を選任、招集して、町民ギャラリーの運営に関して協議し、進めることになった。

### 2. 横芝光町民ギャラリーの企画・運営

平成23年度初めに選任した9名の運営委員によって、町民ギャラリーの当面の企画・運営方針が決定され、それに基づいて今日まで展示の企画・運営がなされている。普通、ギャラリーというと貸施設が多いが、本ギャラリーは、社会文化課で学芸員資格を持った職員道澤が、運営方針に従った展示の企画を立案し、これを運営委員会に諮って決定し、展示を実施している。運営委員会で決定された運営方針は、横芝光町かこの地域に関わる作家、作品、資料を選定し、この町民ギャラリーでしか見られないものを展示し、町民にはここにこれだけの文化・芸術があることを知ってもらうことと、町外へはこの町に人を呼び込むことを目的としている。当初は2か月ごとの年間6回の企画展示で運営したが、展示の準備、入れ替え等の厳しさから平成26年度から3か月ごとの年4回の展示とした。この展示回数で、基本的に半々で美術関係と文化財関係との展示を企画したが、中にはどちらともいえない展示もあり、必ずしも基本には縛られない展示をしている。さらに展示によっては、ワークショップをしたり、昨年度から文化財展示ではギャラリートーク、ギャラリー講演会を実施している。

### 3. 展示の内容について

町民ギャラリーとして運営し始めてから今年で9年目になり、様々な企画展示をしてきた。美術関係では町に寄贈していただいた町出身の画家伊藤順一とその父親一路作品と、寄託されている鈴木総男作品を隔年

で展示し、これを常設展示的な基本とし、それ以外では町内外の作家を発掘し、借用によって展示している。また、町内中・高校とも連携し、これらの生徒作品も担任一任で企画展示を実施した。文化財関係では町収蔵の資料を基本として、これに補足する形で関係機関から関連資料を借用して展示している。

これまでの展示を紹介すると、伊藤一路・順一親子展（写真①）では、伊藤順一は町出身の画家で美大卒業後、主に東京で作家活動をしていたが、すでに故人となり、一部作品と父親作品とが、遺族から町に約100点が寄贈された作品をもとに展示した。また昨年には東京在住の方からの寄贈もあった。伊藤順一作品には100号を超える大作が4点（安井賞入選作含む）あり、これらは町民ギャラリーには大きすぎる作品で、展示には覚悟を要する。櫛田有秋文人画展（写真②）は、町内在住の現在90歳を超えるご高齢な文人画家の作品を借用して展示した。ここで最も工夫を要したのは、襖絵があった事である。この襖絵は大きさが通常の襖に描かれたもので、この雰囲気壊さず、なおかつ両面に



平成 30 年度伊藤一路・順一親子展（写真①）



平成 28 年度櫛田有秋文人画展（写真②）

ある絵画を同時に見せるように工夫する必要があった。そのため室内中央に座敷を設え、襖を立てて展示した。ガラスケースが壁一面にあるが、それ以外はオープン展示となるため、結界として青竹を足元に置いて、雰囲気壊さないようにした。

文化財関係展示では、考古資料のほか仏像、絵馬など美術的なものを扱ったり、展示によって町の歴史を知っていただくため、シリーズとして「考古資料で見る町の歴史展」を、4年間にわたって実施した。このように文化財関係では考古資料と他の文化財とを織り交ぜ、どちらかに偏らないよう企画するとともに、切り口を変えた視点での企画や今日的な課題をも考えて、多くの来場者に興味を引くように工夫している。特に文化財ではこの町に特徴的なものを前面に出し、この町の魅力を引き出す展示を考えている。中でも平成29年の縄文土器1万年展では、町内出土の土器だけを最初期から最終末までのものを一通り展示したり、最大級の土器を展示し、できるだけ多くの土器を展示したことは、来場者に大きな驚きと感動を与えることができた。

#### 4. 町民ギャラリーの今後の課題

町民ギャラリーの根本的な問題は、これが博物館法で定めるところの博物館あるいは相当施設としての、法的な根拠、裏付けを持っていない事である。一応、企画運営は学芸員資格を有する職員が当たっているが、博物館協会にも入れず不安定な状態で来ている。それでもこれまでに様々なところのご厚意により、他館や他公共団体からの資料借用はでき、また、借用申込にも快諾を得ている。しかし、博物館協会に加入しているかないかは、博物館という情報共有の面からは疎外され、孤立無援の状態で開催しているのが現実である。何とか博物館設立へと、首長、教育長に働きかけてはいる。

こうした展示公開（普及、活用）施設としてのこれからのあり方として、この町民ギャラリーのような施設を発展させて、公共施設の複合施設化を考えてはどうかと思う。すでに東京等では商業施設との複合化しているところもあり、財政難に苦しむ地方公共団体では人を集客するには有効であろう。

町民ギャラリーはスペースが狭小で天井高が高くなく、なおかつ展示設備が貧弱であるため、展示物がおのずと制約される。逆にその特性を生かして、文化財展示では特にき損、盗難の恐れのないもの、借用品でなく町所蔵品である資料については、できる限りオ



平成 29 年度縄文土器展（写真③）

ープン展示とし、積極的に触れられるよう体験的な展示を工夫している。それには担当者が可能な限り居て、ギャラリートーク（展示解説）やワークショップ的なことをするように努めているが、今のところ毎週土曜日午後指定して実施するにとどめているのは、ギャラリー及び文化財担当者が一人で切り盛りしているため、これが現状では限界である。このような現状の中で町民ギャラリーは博物館あるいは相当施設と言えるような施設（組織）ではないが、今後、市町村の人口が減る中、公共施設の複合施設化が進むと思われ、その魁として捉えていただければ幸いである。しかし、これにも多々問題があり、その一つは展示準備するためのバックヤードと収蔵庫である。現在、町民ギャラリーのバックヤードと収蔵庫は旧役場庁舎を利用し、展示する場とは離れている。そのため展示するために、展示物のほか造作物、展示台等を車での輸送をしなければならない。その方が博物館における集客が効率的ではないかと考えられる。

今後、博物館・美術館等、展示（普及啓蒙）・資料収集施設（組織）としてだけでなく、地域文化の宣伝する場として、もっと緩やかで多様な活動をとおして、多くの人を巻き込んでいくことが、地域の博物館として活性化できるかと思われる。その意味で各市町村の博物館は必要であると考えられる。

#### 【施設概要】

名 称	横芝光町民ギャラリー
所 在 地	山武郡横芝光町宮川11917
休 館 日	月曜日、祝日の翌日、年末年始
開場時間	午前9時30分～午後5時30分
入 場 料	無料
問い合わせ先	電話0479-84-1358

## 東京オリンピック・パラリンピックに向けて ー多言語化への期待と対応

千葉市美術館 田辺 昌子

本年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、3年ほど前から、訪日外国人への「おもてなし」の試みが、様々に検討されてきた。これを機に、国をあげて美術館・博物館に強く求められていることの一つが、多言語化である。具体的には、ホームページ、展示のキャプションやパネル、館内外の案内表示等において、日・英・中・韓の4か国語が推奨されており、東京を中心に国公立の主要館では、すでにこの表記が多く行われている。千葉県内でも、国立歴史民俗博物館、鴨川シーワールドなどのホームページを見ると、この多言語化の典型に対応しているようだ。

しかし、滞在して観光する訪日外国人がもともと比較的少ない地域にある館にとっては、求められたとしても、これを切実に検討するまでの意識には至らないのが現状であろう。また外国人が言語のストレスを感じることなく、美術館・博物館を楽しむという理想の根底には、インバウンド需要拡大という国の大きな目論見が明示されていることに、やや鼻白む思いを覚える向きもあるだろう。

千葉市美術館では、平成29年の企画展「ボストン美術館浮世絵名品展 鈴木春信」の開催中、オリンピック・パラリンピックに向けた「おもてなし ICT 協議会」による ICT を利用した多言語化への実証実験に協力している。総務省の主導で、社会全体の ICT 化を目指すもので、関連の日本企業が会員となっていることでも理解されるように、やはり主目的は、インバウンド需要拡大のためにその基盤を整備することであった。

千葉市美術館で行われた実証実験のうち、下記の2つの多言語化実験を紹介しておこう。

1. 展示作品の解説を、日本語から来館者の優先言語（英語、韓国語、簡体語、繁体語、タイ語）に切り替えて表示できるタブレットの設置（写真）。
2. スマートフォンを持って代表的な作品の近くに行くと、設置されたビーコン（無線により情報を送る）に反応し、出て来た作品画像をタッチすると音声ガイドを聞くことができるシステム。

1. については、多言語化にすることで巨大化するキャプションやパネル類の問題が解消される点では有効といえる。ただし異なる言語の複数外国人が一度に利用することはできない。

2. は、個別の対応が可能である点で有効である。この実験時は、言語ごとにスマートフォンを貸し出しで行われたが、本来は各自が持つスマートフォンにアプリをダウンロードする仕組みが考えられていた。これは本年1月に開館したアーティゾン美術館で用いられているものに近く、自分のスマートフォンとイヤホンを持って入場し、館内 WiFi を通じてアプリをダウンロードすると、無料の音声ガイドを聞くことができるというシステムであり、今後もこの方式が普及される可能性は高い。

しかし、もちろん問題はむしろ予算と人手である。システムにかかる経費や各言語への翻訳代は、かなり高額である。さらに学芸員にとって問題なのは、専門的な内容であるにもかかわらず、多言語翻訳をチェックしきれず、結果的に間違った情報を伝えてしまう危うさである。実際上記の実証実験利用の外国人からは、翻訳が正確ではないとの指摘もあった。

多言語化を優先するあまり、解説文章を短縮して、翻訳量を減らすということも聞く。内容を広く伝えるための多言語化は、実際どれだけ本当に機能しているのだろうか。結局、実質的な感想としては、まず共通言語としての認識が高く、翻訳者も多い英訳の精度を上げることが最初かと思う。日本語から直接ではなく、英語に訳された文からその他の言語に訳すことも多い。また不完全であったとしても来館者が認識した上で用いるならば、今後自動翻訳の精度にも注目したい。各館の性格に沿って、予算的にも内容的にも、その優先順位を検討しなければ、今後にもつながるような前向きな多言語化の実現は難しいように思えるのである。



▲実証実験1の様子。左端のタブレットにあらかじめ登録したカードをかざすと、優先言語による解説が表示される。

# 令和元年度千葉県博物館協会研修会参加報告

千葉市立郷土博物館 土屋 雅人

## 1 はじめに

令和元年度の千葉県博物館協会研修会が12月11日に千葉県立美術館で開催された。研修会では、ミュージアム情報誌「ミュゼ」編集長の山下治子氏の講演が行われた。「ミュゼ」は1994年に創刊したミュージアム情報誌で、山下氏は創刊から携わり、現在は編集長として、全国のミュージアムが行う多種多様な活動取材し、3か月に1回のペースで発行を続けている。

今回のテーマは「今、ミュージアムに求められていること」。山下氏より、全国各地で取材したミュージアムの中から、魅力的な取り組みを紹介していただき、今日のミュージアムに向けられたさまざまなニーズを学び、今後の事業に活用できるヒントを得ることが目的であった。



▲「ミュゼ」編集長・山下治子氏の講演

## 2 事例紹介

一番目の事例は、広島大学総合博物館の取り組みだった。大学と地域が連携して、オオサンショウウオの調査研究・保全活動を行っている事例が紹介された。広島大学総合博物館は、地域に出向いて連携を図ることで、エコミュージアムとして、地域の活性化と自然再生の両立を目指しているとのことであった。大学博物館が大学と地域の橋渡し役となることにより、地域の住民が、大学の調査研究活動に参画でき、自然の保全活動に貢献できることが、私は印象的であった。

二番目の事例では、世田谷美術館の「誰もいない美術館で」という年間ワークショップが紹介された。このワークショップは、展覧会で気になる作品あるいは空間を見つけ、自分の身体を使ってそこから想像した

ことなどを表現するパフォーマンス発表会を、閉館後に行うという内容である。美術館にあまり来館しない若い世代を開拓することが目的であったが、参加者の大人と中高生とが対等に交流できる場にもなっていたようである。美術作品と演劇を掛け合わせることで、若い世代が、美術館に来館して作品を鑑賞してもらうキッカケを作るだけでなく、あらゆる世代とコミュニケーションを取ることができる点が、私は面白いと感じた。

三番目は、山梨県南アルプス市の事例であった。南アルプス市による「文化財課のお手伝い」という教育普及事業が市民に浸透したことで、地域の歴史を発信する「ふるさと文化伝承館」が市民からの要望により開館したとのことだった。また、当市の文化財年報は、市民が読んでもらえるような、楽しいノリで綴られているようである。市民に文化財への興味・関心を持ってもらうため、市民の目線で多岐にわたる事業を展開する南アルプス市の取り組みは、私にとって何らかの形で取り入れたい内容が多かった。

## 3 文化の拠点

三つの事例では共通する点がある。それは「拠点」である。広島大学総合博物館は大学と地域が連携して調査研究・保全活動を行う拠点、世田谷美術館はワークショップで異世代が交流する拠点、南アルプス市の「ふるさと文化伝承館」は当市がめざす文化財のあるまちづくりの拠点となっている。

いずれのミュージアムも、人々またはコミュニティを繋げる文化の拠点として機能し、魅力的な取り組みを行っている。社会状況が変化する中で、今日のミュージアムも、こうした文化の拠点としての役割が求められているかもしれない。

山下氏は、全国各地のミュージアムを訪れ、学芸員などの話も聞きながら、魅力的な取り組みを「ミュゼ」で取り上げている。文化の拠点として魅力向上に取り組むミュージアムが次々と「ミュゼ」に取り上げられるようになれば、日本のミュージアムの底上げになるかもしれない。私も、ミュージアムにとって何か魅力的な取り組みを探し、それを実践してみたいと思う。

## \* 春から秋の催し (4月~9月) \*

館園名・行事の種類	行 事 名	開催期間・期日	館園名・行事の種類	行 事 名	開催期間・期日
●我孫子市鳥の博物館	TEL 04-7185-2212		●千葉県立中央博物館大根分館	TEL 0478-56-0101	
展 覧 会	第86回企画展「バンディング展～足塚でわかる鳥の動き～」	開催中～6月14日	展 覧 会	トピックス展「振り子が刻んだ時の記憶」	4月1日～5月6日
●浦安市郷土博物館	TEL 047-305-4300		展 覧 会	企画展「ちばらき～千葉県と茨城県の境～」	5月30日～6月28日
展 覧 会	「もっと知りたいふるさと浦安」	7月21日～8月30日	展 覧 会	夏休み展示「カミツキガメ」	7月18日～8月30日
展 覧 会	「ふるさと浦安作品展」	9月26日～10月18日	●千葉県立中央博物館大多喜城分館	TEL 0470-82-3007	
●御宿町歴史民俗資料館	TEL 0470-68-4311		その他イベント等	大多喜さくらまつり	4月4日・5日
展 覧 会	「甦る昭和の生活展」	開催中～6月21日	展 覧 会	収蔵資料展「大多喜城の弓」	7月9日～10月18日
展 覧 会	「御宿の寺院と仏像展」	6月23日～9月13日	●千葉県立中央博物館分館海の博物館	TEL 0470-76-1133	
●鴨川シーワールド	TEL 04-7093-4803		展 覧 会	令和元年度マリンサイエンスギャラリー「超深海Hadal World～水深6,000m以深の世界～」	開催中～5月10日
その他イベント等	「動物友の会月例会」	4月11・18日、5月23・30日、 6月20・27日、7月11・18日、8月8・22日、9月12・26日	講演会・講座等	講座「超深海水深6千メートル以深の世界」	5月2日
その他イベント等	「ジュニアトレーナー」	6月6・7・13・14・20・21・27・28日、7月4・5・11・12日	展 覧 会	令和2年度収蔵資料展「大収蔵資料展 海博・お宝大集合!」	7月18日～9月27日
その他イベント等	「サマースクール」	7月21～23・27～31日	●千葉県立房総のむら	TEL 0476-95-3333	
●君津市立久留里城址資料館	TEL 0439-27-3478		展 覧 会	トピックス展「房総の牧から酪農へ」	4月25日～5月31日
その他イベント等	よろい武者に変身!(甲冑試着体験)	5月3～5日	その他イベント等	春のまつり	5月3～5日
●国立歴史民俗博物館	TEL 043-486-0123 03-5777-8600		その他イベント等	むらの緑日・夕涼み	8月9・10日
展 覧 会	国際企画展示「昆布とヨコエ潮香るくらしの日韓比較文化誌」	開催中～5月17日	●千葉市科学館	TEL 043-308-0511	
展 覧 会	国際企画展示「加耶～古代東アジアを生きた、ある王国の歴史～」	7月7日～9月6日	その他イベント等	春・GWの企画展「スペースミッション2020～千葉が宇宙の 第一歩!～」Part1	開催中～4月5日
展 覧 会	特集展示「東アジアを駆け抜けた身体～スポーツの近代～」	7月14日～8月30日	その他イベント等	春・GWの企画展「スペースミッション2020～千葉が宇宙の 第一歩!～」Part2	4月17日～5月17日
●佐倉市立美術館	TEL 043-485-7851		●千葉市美術館	TEL 043-221-2311 ※7月10日まで改修工事のため休館	
展 覧 会	収蔵作品展 ちばのいろ	開催中～5月17日	展 覧 会	「ジャポニスム～世界を魅了した浮世絵」	7月11日～9月6日
展 覧 会	収蔵作品展 2(仮称)	5月23日～7月12日	展 覧 会	「宮島達男展」(仮称)	9月19日～12月13日
展 覧 会	大正イマジユリの世界展(仮称)	8月1日～9月22日	●千葉市立加曾利貝塚博物館	TEL 043-231-0129	
●山武市歴史民俗資料館	TEL 0475-82-2842		展 覧 会	特別史跡加曾利貝塚「令和元年度発掘調査速報展」	開催中～5月24日
展 覧 会	「食虫植物群落保存百年の道のり」	4月11日～令和3年3月24日	その他イベント等	特別史跡加曾利貝塚 縄文春まつり	5月3日・4日
●市立市川考古博物館	TEL 047-373-2202		講演会・講座等	縄文土器づくり講座	6月6日・13日・20日、7月11日
講演会・講座等	市川歴史カレッジ公開講演会「丸木舟」(仮称)	5月30日	●千葉市立郷土博物館	TEL 043-222-8231	
展 覧 会	ホール小展示「火打石」(仮称)	8月8日～約1年間	講演会・講座等	夏休み郷土史講座	7月
その他イベント等	ナイトミュージアム	8月22日	講演会・講座等	鍛づくり体験講座	8月
●市立市川歴史博物館	TEL 047-373-6351		その他イベント等	火縄銃演武	8月
展 覧 会	企画展「葛飾八幡宮と八幡の敷知らず」	7月17日～9月6日	●流山市立博物館	TEL 04-7159-3434	
●白井市郷土資料館	TEL 047-492-1124		展 覧 会	(公財)千葉県教育振興財団主催 出土遺物公開事業 北方交流録～南東北とつながる5つの物語～(仮称)	7月18日～8月30日
展 覧 会	チバミュージアムフェスタパネル巡回展「『オリンピック・パラリンピック』と千葉のスポーツ史」	7月22日～8月16日	展 覧 会	流山の災害史(仮称)	9月19日～11月29日
●袖ヶ浦市郷土博物館	TEL 0438-63-0811		●成田山書道美術館	TEL 0476-24-0774	
展 覧 会	企画展「ごはんの作り方」(仮称)	4月11日～6月14日	展 覧 会	成田屋市川団十郎の書と絵画／東京五輪記念	
その他イベント等	第25回ミュージアム・フェスティバル	6月6日・7日	展 覧 会	1960年代の書 東京五輪のころ	4月25日～6月21日
●館山市立博物館	TEL 0470-23-5212		展 覧 会	東京五輪記念 2020年 今日の書	6月27日～8月30日
展 覧 会	新収蔵資料展「あたらしい資料のご紹介」	4月25日～7月5日	展 覧 会	成田山の文化財～収蔵品を中心に	9月5日～10月25日
展 覧 会	収蔵資料展「健康地・房州」(仮称)	7月18日～10月4日	●船橋市郷土資料館	TEL 047-465-9680	
講演会・講座等	歴史体験教室「甲冑を着よう」	毎月第2・第4日曜日	展 覧 会	企画展「船橋の「これ、知りたい!」～先生がもっと知りたいこと～」	開催中～5月10日
●千葉経済大学地域経済博物館	TEL 043-253-9843		講演会・講座等	地域史講座「永井荷風と船橋」	6月13日
講演会・講座等	古文書講座	6月13日	展 覧 会	日本大学理工学部学芸員課程MA展示 「船橋の自然み～つけた」	7月7日～9月22日
●千葉県立現代産業科学館	TEL 047-379-2000		●野田市郷土博物館	TEL 04-7124-6851	
その他イベント等	GW・フェアin科学館2020	4月25日～5月6日	展 覧 会	市民アート展「ん?木になるアート」	4月11日～6月29日
その他イベント等	千葉県民の日	6月15日	●松山庭園美術館	TEL 0479-79-0091	
その他イベント等	オートナム・フェアin科学館2020	9月12日～22日	展 覧 会	「第17回猫ねこ展覧会2020」	4月10日～7月26日
●千葉県立関宿城博物館	TEL 04-7196-1400		●茂原市立美術館・郷土資料館	TEL 0475-26-2131	
展 覧 会	パネル展「街道をたどる」	4月14日～6月28日	展 覧 会	美術収蔵品展「千葉県ぐるっと途中下車の絵画展」	6月27日～10月27日
展 覧 会	パネル巡回展「『オリンピック・パラリンピック』と千葉のスポーツ史」	5月19日～6月14日	展 覧 会	美術収蔵品展「日本画優品展」	9月5日～10月18日
展 覧 会	すごろクイズ「旅に出よう!」	6月30日～9月27日	●八千代市立郷土博物館	TEL 047-484-9011	
●千葉県立中央博物館	TEL 043-265-3111		展 覧 会	企画展「新川～よみがえる古川～」(仮称)	4月25日～6月14日
展 覧 会	春の展示「うめ・もも・さくら」	開催中～5月17日	展 覧 会	企画展「チバミュージアムフェスタ2020 千葉のスポーツ史」	7月18日～9月6日
展 覧 会	チバミュージアムフェスタ「『オリンピック・パラリンピック』と千葉のスポーツ史」	開催中～5月10日			
展 覧 会	「ちばの縄文～貝塚からさぐる縄文人のくらし～」	7月18日～9月22日			

## \* 展覧会案内 \*

国立歴史民俗博物館 国際企画展示

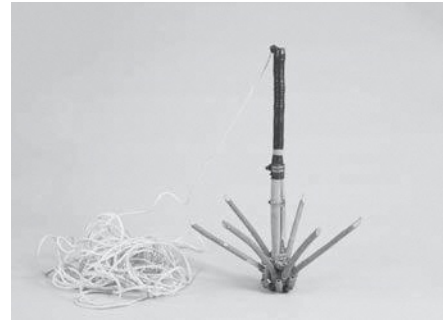
## 昆布とミヨクー潮香るくらしの日韓比較文化誌

昆布とミヨク(わかめ)といったなじみ深い海藻を象徴として、日本と韓国の、海をめぐるありふれた日常の歴史とその移りかわりに、類似と相違という観点から光をあてます。先人たちが互いに影響しあい、主体的に相手の文化を受け入れてきた躍動的な姿をご覧ください。

&lt;会期&gt;開催中～5月17日(日)

&lt;休館日&gt;月曜日(休日の場合は翌平日)

<料金>一般1,000円(800円)、大学生500円(400円) 高校生以下無料  
※( )内は20名以上の団体料金

トチゲ(ワカメ採取用) 20世紀  
(韓国国立民俗博物館蔵)

千葉県立中央博物館

## ちばの縄文ー貝塚からさぐる縄文人のくらしー



本展覧会では、県内の遺跡から出土した土器や石器のみならず、貝、骨、植物などの多種多様な縄文遺物を幅広く収集して展示することにより、県内出土遺物の重要性と、その研究によって導き出された食生活、埋葬方法、交易に伴う活動範囲などの当時のくらしの様子や縄文時代の古環境について、わかりやすく紹介します。

&lt;会期&gt;7月18日(土)～9月22日(火)・(祝)

&lt;休館日&gt;月曜日(休日の場合は翌平日)

<料金>一般500円(400円)、高校・大学生250円(200円)、中学生以下・65歳以上無料 ※( )内は20名以上の団体料金

袖ヶ浦市郷土博物館

## 企画展 ごはんの作り方

袖ヶ浦市では小櫃川により開析された広大な平野部や、小河川により形成された谷津において米が作られ続けてきました。従前、米作りは生活の中心であり、米に関する民俗行事も数多くあります。

本展覧会ではかつて使われていた米作りに関連する民具や民俗行事を紹介します。人々の米作りに掛けた多大な労力や苦勞を振り返り、米作りの重要性について考えます。



虫送り

&lt;会期&gt;4月25日(土)～6月14日(日)(予定)

&lt;休館日&gt;月曜日(休日の場合は翌平日)

&lt;料金&gt;無料

虫害対策(ガスくん蒸)・生物生息調査・空気環境調査

文化財保存の  
エキスパート

ECC 環境コントロールセンター

【本社】(環境部・研究開発室・営業部・総務部・経理部・情報管理室)  
〒260-0806 千葉市中央区宮崎1-22-10  
TEL 043-265-2261 FAX 043-261-0402  
URL <http://www.e-c-c.co.jp>

屋内外広告物全般 企画・製作・施工

ステンレス・アルミ製各種看板・電飾看板  
道路標識・街路表示板・観光絵看板  
各種横断幕・懸垂幕・のぼり旗  
プラスチック製品加工

千葉県屋外広告業登録 第202号

有限  
会社

大窪美術工房

〒262-0002 千葉市花見川区内山町191番地  
TEL 043(257)1221(代) FAX 043(257)1224  
E-mail: [art-studio.okubo@apost.plala.or.jp](mailto:art-studio.okubo@apost.plala.or.jp)

# 日誌抄

## 事務局

### ■第2回役員会

令和元年12月3日(火) 10時~12時

会場/千葉県立中央博物館

- 内容/①ICOMへの職員派遣事業 結果報告  
②台風15,19号襲来時の資料救済ネットワークの稼働結果報告  
③令和元年度の事業実施中間報告について 等

## 研修委員会

### ■研修会

令和元年12月11日(水) 13時30分~15時30分

会場/千葉県立美術館

内容/「今、ミュージアムに求められていること」

### ■第2回委員会

令和2年1月21日(火) 15時~16時

会場/千葉県立美術館

- 内容/①研修会の振り返り  
②令和2年度の事業計画について

## 調査研究委員会

### ■第2回委員会

令和元年11月20日(水) 13時30分~15時40分

会場/千葉県立現代産業科学館

内容/研究報告会について

### ■研究報告会

令和2年1月15日(水) 13時30分~16時30分

会場/千葉県立現代産業科学館

内容/「共生社会の中の博物館Ⅱ-館園からのアプローチ」

## 地域振興委員会

### ■第1回役員会

令和元年9月11日(水) 10時30分~12時30分

会場/千葉県立中央博物館

- 内容/①今年度の業務確認  
②地域ブロック担当委員について  
③昨年度までの反省と今後の課題  
④その他(次年度の委員選出について・文化財大綱について)

### ■各ブロックの活動

令和元年8月~令和2年2月

内容/各ブロック会議の開催

## 広報委員会

### ■第3回委員会

令和2年2月7日(金) 14時~16時

会場/千葉市美術館

内容/「ちばの博物館」第145号の編集について

## 編集後記

『ちばの博物館』145号をお届けいたします。

加盟館園、各委員会の皆様におかれましては、情報提供または原稿作成にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

今年度は秋に相次いで大きな台風が襲来し、県内の博物館施設にも様々な被害がありました。広報委員会でも、当協会のホームページにおいて資料の被災状況や臨時休館情報などを発信しております。一日も早い復旧を願うとともに、災害に対して各館や協会として何ができるのかを日々考えてまいりたいと思っております。  
(柏女)

## 印刷物

のことならおまかせください!!

チラシ・ポスター・POP・シール・名刺・封筒・  
ハガキ・DM・カタログ・パンフレット・伝票etc

有限会社エーワンネットワーク

〒273-0015 船橋市日の出2-2-13 第2ナカイビル102

営業時間/9:00~18:00 定休日/日曜・祝日

TEL.047(437)6208



関東港業株式会社  
KANTO KOGYO Co., Ltd.

Protect Cultural Assets !!

IPM理念に基づいた  
保存環境の調査~提案・施工まで  
文化財保存対策なら当社にお任せ下さい

専用くん蒸庫完備  
(各種薬剤対応)  
28ml/9ml対応

各種くん蒸施工・環境調査・クリーニング・資料保存用品 ect

〒261-0002

千葉市美浜区新港58-2

TEL 043-241-1721 FAX 043-241-0080

http://www.kan-ko.co.jp

水族館・動物園等の企画/デザイン・設計・施工・管理  
株式会社 鬼工房  
東京都千代田区神田神保町2-48  
TEL 03-5221-1102 FAX 03-5221-1183